



教授の呟き

第43回

ロジスティクスに活用したい日本の文化

東京海洋大学教授 苦瀬博仁

●●● 外国で経験する文化の違い

数年前、エジプトのカイロからアレキサンドリアまで、約3時間の道のりを車で移動した。途中で1カ所しかないパーキングエリアで、イスラム教徒のドライバーは、当然のことのように長めの休憩をとった。モスクでお祈りをするためだった。

外国を旅すると、文化の違いをしばしば感じ、社会の約束事や生活習慣などがロジスティクスに与える影響を考えてしまう。長い休憩や昼休みが必要な国、1人で検品やレジ打ちをさせない国、通関手続きのスピードが属人的な事情で変わる国。契約書を交わしてからが本当の値切り交渉となる国など。

●●● 経済・物的・社会計画が重要

都市計画の世界的な組織であるIFHP（国際都市住宅連合：International Federation of Housing and Planning）。IFHPでは、計画を、経済計画・社会計画・物的計画の3つに分けている。

計画実施の費用や効果を分析する経済計画、社会規範や生活行動を検討する社会計画、建築物や道路などの施設にかかわる物的計画である。

これをロジスティクスに当てはめてみれば、必要な費用と効果の分析（経済計画）や倉庫・配送センターの整備方法（物的計画）とともに、文化的な特徴に根ざした生活習慣や商

習慣（社会計画）ということになる。近年のIT（情報技術）化と国際化は、生活や文化に影響を与えている。この社会変化によって、ロジスティクスも変革を迫られている可能性があるだろう。

●●● IT化・国際化に日本の特徴

インターネット新聞を主宰している竹内謙氏は、言語学者で東京工業大学名誉教授の芳賀紘氏の表現を借りながら、次のように指摘した。

「日本の『凹型文化』が、匿名の世界では無法や無責任な発言となって発散することがインターネットの登場によって明らかになった」「匿名で書き込みができるインターネットの掲示板は、誹謗中傷、名誉毀損など、無法無責任がまかり通っている」。芳賀氏の表現とは、日本民族の特徴として、穏やか、内気、まじめ、攻撃より忍従、対立より和合などを挙げていることだ。⁽¹⁾

多摩大学学長の中谷巖氏は「インターネットに代表されるIT革命により、瞬時に情報が共有できるようになって、日本固有の長期雇用や系列取引などの優位性がなくなった」とする。⁽²⁾

しかし長年の付き合いがあるからこそ、多少無理な注文でも聞くことができる。相手の心持ちや事情を理解できるからこそ、阿吽（あうん）の呼吸で効率上がることもある。

IT化と同じく、近年の大きな変革である国際化は、短期的な契約に

基づく効率至上主義の世界を市場経済で作り出しているように思える。

しかし、効率性からはムダに見える「ゆとり」こそが、安心感や信頼性を高めていることも多い。

●●●●●
●●●●● “いきな計らい”で品質向上

確かに、IT化や国際化の進展で、わが国の文化的特徴が裏目に出ている面もあるだろう。反対に長期雇用制度で将来への安心感と意欲を維持させ、会社のノウハウを継承しようとする企業も多い。伝承されている企業風土のもとでの新たな伝統づくりが、日本の経営の良さでもある。

また律義で繊細な感性が職人気質をはぐくみ、小さい貧富の差と穏やかな国民性を通じて、安全で安定した社会を形成してきた。このことがJIT（ジャスト・イン・タイム）や高度な品質管理を生み、結果として世界のロジスティクスをリードしてきたように思う。欧米流のマニュアル文化よりも「かゆいところに手が届く粋（いき）な計らい」が、顧客ニーズへの適応能力と高いサービスレベルを維持していることもありそうだ。

江戸時代に活躍した近江商人は、「浮利を追わず」「売り手よし、買い手よし、世間によし」を旨とした。「他人が嫌がる苦勞を進んで『きばり』」「長期的に見て経済の合理性を求め『しまつ』」を心がけていた。

(3) (4)

「IT化するなわち短期的思考、国際

浮利を追わず
売り手よし、買い手よし、世間によし（三方よし）
勤勉・儉約・正直・堅実・寛容
きばり（他人が嫌がる苦勞を進んで行く）
しまつ（長期的に見た経済の合理性を求めろ）



化イコール欧米化」という考え方とは別に、「わが国固有の文化や心の資産に根ざしたロジスティクス」があってもいいはずと思うのである。☺

- (1) 竹内謙：世界市民記者フォーラムでの『JanJan』報告、インターネット新聞JanJan、2005年6月30日
- (2) 苦瀬博仁：「中谷巖氏講演『ロジスティクス経営革命』におもう」、ロジスティクスシステム、vol.12、No.10、pp6-9、日

- 本ロジスティクス・システム協会、2003年
- (3) 淡海文化を育てる会編：「近江商人の道」、pp164-168、サンライズ出版、2004年
- (4) 三方よし
<http://www.shigaplaza.or.jp/sanpou/index.html>
- (5) 苦瀬博仁：「グローバル化の落とし穴」、教授の呟き、第7回、流通設計21、第34巻7号、2003年
- (6) 苦瀬博仁：「リッチなIT途上国(?)の将来」、教授の呟き、第15回、流通設計21、第35巻3号、2004年

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂) <http://www.e.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

